

| 第129回横浜市都市美対策審議会議事録 |  |
|---------------------|--|
| 議 題                 | 議事1 都市デザイン50周年企画について（報告）<br>議事2 各部会の開催状況について（報告）<br>議事3 都市デザインの広報について（報告）<br>議事4 その他<br>・次期市民委員の公募について   |
| 日 時                 | 令和3年3月25日（木）午後2時から午後3時34分まで  |
| 開催場所                | 一般社団法人横浜みなとみらい21 プレゼンテーションルーム  |
| 出席委員<br>（敬称略）       | 会場出席：西村 幸夫、大西 晴之、国吉 直行、鈴木 智恵子<br>リモート出席：加茂 紀和子、小林 徹、関 和明、中島 美紅、山家 京子   |
| 欠席委員<br>（敬称略）       | 真田 純子、野原 卓、福岡 孝則、矢澤 夏子   |
| 出席した<br>幹事・書記       | 幹 事：目黒 亨（政策局長代理 政策部政策担当部長）<br>岩間 隆男（環境創造局長代理 政策調整部政策課担当課長）<br>鵜澤 聡明（建築局長代理 企画部長）<br>井上 義晃（道路局長代理 計画調整部長）<br>落合 明正（港湾局長代理 みなと賑わい振興部長）<br>書 記：堀田 和宏（都市整備局企画部長）<br>榊原 純（都市整備局地域まちづくり部長）<br>梶山 祐実（都市整備局企画部都市デザイン室長）<br>吉田 和重（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）  |
| 関 係 者               | 議事1：梶山 祐実（都市整備局企画部都市デザイン室長）<br>議事2：吉田 和重（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）<br>梶山 祐実（都市整備局企画部都市デザイン室長）<br>議事3：梶山 祐実（都市整備局企画部都市デザイン室長）<br>議事4：梶山 祐実（都市整備局企画部都市デザイン室長）   |
| 開催形態                | 公開（傍聴者：5名）   |
| 決定事項                |  |
| 議 事                 | <p>（西村会長）<br/>           それでは、会議の公開について事務局から説明をお願いしたいと思います。</p> <p>（梶山書記）<br/>           本日の部会については、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条に基づき、公開とします。</p> <p>（1）都市デザイン50周年企画について（報告）<br/>           （西村会長）<br/>           まず議事1、都市デザイン50周年企画について、事務局より説明をお願いしたいと思います。</p> <p>議事1について、事務局から説明を行った。</p> <p>（西村会長）<br/>           ありがとうございます。それでは、この件につきまして、何か質問やご意見があればと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ、鈴木委員、お願いいたします。</p> <p>（鈴木委員）<br/>           全般的な流れは分かりましたが、横浜は18区でこういう都市デザイン的な企画みたいなものはないのでしょうか。当初、50年前はそういうことを区役所は何もできなかったと思うのですが、最近はいろいろな取組ができるようになっていきますし、やはり区のレベルでやると一般の方々に浸透しやすいので、例えば地域講座みたいなものはかなり一般の方々にご参加いただけます。ですから、そういった市民に向けてというのを区レベルで考えていただきたいと思います。</p> <p>（西村会長）<br/>           区レベルでやれないかというご意見ということでもいいですか。</p> |

ほかに何かないでしょうか。リモート参加の委員の先生方で何かあれば合図をしていただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。山家先生、どうぞ。

(山家委員)

50周年ということで、感慨深いものがあります。50周年の取組、これまでの流れなど、取組についての発信ということもあるかと思うのですが、50周年のこの1年間を通した活動の何か記録のまとめ、冊子媒体であるとか、そのようなことはお考えがあるのでしょうか。

(梶山書記)

今回、都市デザイン50周年の企画に合わせまして、まず一つは50年のアーカイブをどうまとめていくかということと、振り返りから未来にかけて再設定していくという今回の取組を何らかの形でまとめていきたいとは考えているのですが、具体的にどういった媒体でまとめていくかということについては今、検討を進めているところでございます。

(西村会長)

よろしいでしょうか。

(山家委員)

はい。今後の未来に向けてのディスカッションもあるようなので、ぜひ何らかのまとめがあるといいなと思いました。

(西村会長)

ほかは何かありますか。関先生、どうぞ。

(関委員)

5番目の都市美審としてのということに関わると思うのですが、たまたま表彰広報部会の人・まち・デザイン賞も10回目が延期されたので今年度になりました。今年度のスケジュール的にはちょっと難しいかもしれませんが、10回目なので、今までの振り返りのところで受賞された作品やまちなみ景観賞、あるいはその前の良い景観がどういうものであったかというのをどこかで展示なり、まとめた形で公開していただければと思いましたので、一言コメントしました。

(西村会長)

受賞作品などの検証もやるべきであるということですね。

ほかはよろしいですか。またあったら言ってください。国吉委員、お願いします。

(国吉委員)

横浜の都市デザインは、横浜をベースに展開しながら、日本の都市デザインというものをできるだけ浸透させていこうという運動でもあったような感じがします。ですから、この50年の間で横浜がどのように展開していったのかと同時に、直接影響を受けたか連動したか分かりませんが、その間にほかの都市がどのように展開してきたか。ここは幾つかのパートに分けて、ほかの都市のほうが進んでいて横浜はとっくに置いていかれているものもたくさんあるので、そういうものも含めて、日本全体のまちづくりにおけるクリエイティビティや魅力という視点でどういう展開になってきているか。それを踏まえて、横浜の中だけで横浜というのを発信するのか、他都市の動きも見ながら新たなメッセージをつくるためにどのように展開していくかという議論もしたほうが、次の展開には意義があるかなと思いました。その辺のフレームをもう一つ、他都市なども入れた視点や議論など、昔は都市デザインフォーラムなどもやったりしているわけですが、今年だけでなくもいいので、海外なども含めたそういう議論みたいなものの展開も必要だなという感じがいたしました。

(西村会長)

ありがとうございます。私も一言言わせていただくと、企画がすごく内向きだなと。市民向け、それも大事なのですが、今、国吉委員もおっしゃっていましたように、都市デザインというのは、槇先生がハーバードから戻ってこられたぐらいにそういうことが言われているらしいと。50年代後半ぐらいだと思うのです。ようやく日本にそんなことが伝わって、組織の名前として動き出したのは、多分これが最初だと思います。そこから、これは行政の課題でもあるんだということで、横浜から日本に広がって、今やそれが一般的になってきているので、すごく大きな流れをつくったわけです。ひょっとしたら、それは海外にも影響を与えている。アジアに関しては。だから、50年を振り返るときには、そっちの役割も同じぐらい大事だと思います。そこが欠けると、いかにも小さくつくり上げてしまっている感じがして、せつかく今までやってこられたことが生きなくてもったいないと思いますので、そういう意見、感想を持ちました。

ほかはありますか。それだったら私も言いたいみたいな人がいるかもしれません。いいですか。どうぞ、大西委員、お願いいたします。

(大西委員)

過去のものを総括するというのは将来に向かって大事なことだと思うのですが、私に関心を持っているのはこの未来会議です。今後の50年のマスタープランをつくるという意味では、コロナを一つのきっかけとして、このまま今のオンラインの仕事が充実していったら、何も毎日オフィスに出る必要がないとか、そのあたりがこれからどうなるかというのは私もはっきり分からないのですが、今後、場合によるとライフスタイルとかそういうものが大きく変わる可能性があると思うので、興味的な楽しみというよりも重要なことだと考えております。ここでも官・民・学から幅広い人を募って、そういうものを討議していくということについては非常に楽しみなのですが、これからの問題でしようけれども、どのぐらいの規模でそういうものを進めるのかとか、広い分野からどのような選択をしていくのかということも重要になってくると個人的には思うものですから、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

(鈴木委員)

今、国吉さんとか西村先生のお話を伺って、ちょうど50年ということですが、私は40年ぐらい前に横浜市の都市デザインという言葉を知った頃、衝撃的な輝かしい感じがしたのです。ほかの都市にはないというか、横浜というのはすごく斬新で、都市デザインというのは一般から見たらよく分からないのですが、そういう取組を始めたということではいろいろなことをやっていったと。50年というか、40年ぐらい前がすごく輝いていたと思うのですが、その頃の輝きを取り戻すというか、今、都市デザインというのがあまりにも一般的というか、それだけ浸透したということだと思いますが、そういう輝かしさというものが今横浜に、頑張っていたいてはいますけれども、あの当時の衝撃的なものはないので、そういうことを取り戻してこれから続けるような形で、お金をいっぱい使うなどということではなくて、何かそういう発信の仕方を都市デザイン的に考えたほうが良いと思います。輝かしいというのが、特にこのコロナで今ないですね。だから、そういうことをまた横浜から発信すると、これから先50年、50年たつと100年ということになるわけですから、そういうものにつながるのではないかと思います。ちょっと言わせていただきました。

(堀田書記)

いろいろなご意見ありがとうございます。我々も今まさに、今までの50年、これからの50年というものの自体をどのように議論するのか、今日は項目を挙げさせていただきましたが、会長初め皆さんから頂いたように、多少内向きのところがあります。最近、我々が相当思っているのが、情報発信の仕方です。今、鈴木委員から話がありましたが、それが非常にうまくいっていないということも反省点としてございます。また、大西委員から話がありましたが、どこまで幅を広げていくのか、どこまで世界観として都市デザインというものの自体を見ていくのかということだと思います。正確には今年度から始めているのですが、来年度から本格的に都市マス、全市マスの改定作業に入っていきます。都市デザインというのは、当然都市づくりの一端を担っているということで我々は捉えておりますので、新しい生活、ライフスタイルが変わっていくとか、そういったことも踏まえて都市づくりを検討していく中で、同じレベルで都市デザインについても議論できるような環境も整えなければいけないだろうと思っています。また、国吉委員から話がありましたが、50周年を迎え節目の年になるのですが、1年間で全てをやり終えるというのは難しいかなと思っています。まだ決めていませんが、私の個人的な考えとしては、都市デザインビジョンなどもつくってから大分たっておりますので、ああいっただものの改正なども含めて、あれはもしかしたら手続的なものになってしまうかもしれませんが、やはり中身を充実させる、もう一回整理をしてみるとかそういったことも含めて、3年ぐらいかけてきっちりやるべきなのではないかと思っています。これは梶山以下としっかり相談して進めていきたいと思っています。

(国吉委員)

以前は国際会議などもやったりしたのですが、国際会議や地域会議だけをやっても結構地味なのです。あわせて、いろいろな提案コンペなどのイベントをやって、いろいろな人がある地区を提案する。先ほど大西委員さんがおっしゃったようなこととか。ただ議論というのは一部の人がやっているように見えるので、それを幾つかの集団で、どこかの区でもいいし、都心と区部でもいいですが、2か所ぐらいでやったり。それぞれ長くやってきたから、行政の中も国の枠組みとかそういうのもあってなかなか新しい発想をしにくくなっている状況もあるので、完全にそれは取り払って、民間のチームが幾つかとかく提案してみようというようなことで、制度上どのように受けていくかというのはありますけれども、国と横浜市とか今持っている枠組みにあまりこだわらずに改めて提案するみたいな、今、堀田さんがおっしゃったような来年以降でもいいのですが、そういう実験的なことも併せて

やったほうが飛躍のためにはいいかなという感じがしますので、その辺もお考えいただければと思います。

(西村会長)

面白いですね。50周年記念の大きな提案コンペみたいなものやってみようとか、確かにそうですね。それとか、衝撃的というので言うと、今リモートでいろいろなことがやれるので、これを機会に例えば海外の人でも、横浜と付き合いがあったり横浜のことをよく知っていらっしゃる方がいますよね。その人たちに例えば20分とか30分、横浜の今までとか提言してもらおうようなシリーズをやる。これはお金がかかりませんからね。そうすると全然違う視点で出てきて、ほかの都市がやるのと違うような面白い衝撃的な、つまり、ほかのところに比べて多分ネットワークがすごいはずなので、そういうものがものすごく生きると。それも、そんなにお金をかけて呼ばなくてもいろいろなことができるので、そういうものもやってみるとか、せっかく今まで蓄積したいろいろなものがあるから、それは知恵を出せばものすごく面白いことになるのではないかと思います。そんなにお金をかけなくてもいろいろなことはできるはずなので、ぜひ知恵を出してほしいと思います。

(梶山書記)

とにかくいろいろなアイデアを頂く中で、先ほど最後にその他というところで連携の話もさせていただいたのですが、今、都市デザイン室8名だけでできるようなお話では決していないと思っています。いろいろなところと連携させていただいて、どういったものができるかということのをこれから組み立てていきたいと思っていますので、今頂いたご意見も踏まえながらどういった形ができるかというものを、先ほど堀田からもお話しさせていただきましたが、恐らく1年という単位でできるようなものではないと思っていますので、継続してやっていく取組として企画していきたいと思っています。

(西村会長)

よろしく願います。手伝ってくれる人も多いのではないかと思いますので、そういう助っ人もネットワークの財産のうちだと思って、いろいろなことを提案していただければと思います。

よろしいでしょうか。それでは次に行きたいと思います。

## (2) 各部会の開催状況について (報告)

(西村会長)

第2番目ですが、各部会の開催状況についてということです。前回の128回の都市美対策審議会開催以降に開催された各部会の開催状況について、報告をお願いしたいと思います。運営要領に基づきまして部会長が報告することになっておりますが、まずは事務局から報告していただいて、それに部会長が補足していただくという形で進めたいと思います。よろしいでしょうか。それでは、事務局からまずはお願いしたいと思います。

議事2のうち、景観審査部会及び表彰広報部会の開催状況について、事務局から説明を行った。

(西村会長)

ありがとうございます。これは、一つ一つ行きましょうか。全部まとめて報告されると忘れてしまいそうなので、まず、景観審査部会のところで国吉部会長、何か補足があれば。

(国吉委員)

おおむね事務局の説明でいいのですが、特に山下公園通りとか山手地区についてはこれまで重要に考えていたところなのですけれども、今回提案された内容は、特に山下公園通りについては以前あったホテルに比べると公開空地のつくり方が非常に寂しいのではないかとということで、そういう比較の下に、ホテルが来てくれることは非常に歓迎しながら、その辺のアクティビティをもう少し、外との関係を密にするというようなことです。角入りがどうかというのは事業者の好みなので、角入りに対する意見もあったのですが、それについてはあえて申し上げないで、公開空地が小さくなるとか、あるいは旧英国7番館の見え方がそれによって限定されてくるなどの影響も大きいというようなこと、それから今後、建物の中層部の見え方がちょっと住宅っぽいのではないかとか、ファサードのつくり方等も含めてまだいろいろな課題があるということで、これをリターンしてもう一回議論して、検討していただいています。

それから山手地区、3番になっておりますが、これはあるディベロッパーが、先ほどインターナショナルスクールのところに別の案件もあるとおっしゃったのですが、その他、7、8件土地を買って

おりまして、危惧するのは、同じようなパターンのよくある何とかシリーズみたいなことで、山手がそういうものになってしまうのは危ないということで、先々、山手地区の個別の魅力みたいなものを維持しながら、同じパターンで展開するのは避けていただきたいという話を踏まえて、今回のものはある程度認めたとしても、次からは山手の文脈に沿ってどうやってつくっていくかということを重視して検討いただきたいということは併せて申し入れております。その辺が一番大きかったかなと思います。

あと、藤が丘については最初の提案が非常に質が悪いということを中心にかなりはっきりと委員全員で申し上げて、大幅な変更をしていただいて非常にいい方向になってきていると思っています。大体そんなところが重要なところだったかと思います。

(西村会長)

ありがとうございます。何かご質問は。鈴木委員、お願いします。

(鈴木委員)

1番目の山下公園通りのホテルの新築計画で、これは質問なのですが、今までホテルがあったところの建替えということですか。同じ事業者がやるということですか。これはたしか45年ぐらい前だと思えますが、その前はアメリカ領事館か何かがあったところですね。それを壊してこの辺を一体的に整備したと思うのですが、そのときにアメリカ領事館のちょっとしたドアとか、大きくは残せないけれども一部とか、歴史を生かしたみたいな感じで保存するというのをやってくださったと思うのです。いろいろ考えていただいているようですが、この地区は居留地の領事館などがあつた系譜を持った土地ですから、それにふさわしいようなホテルであつてほしいと思います。今、領事館などはもう横浜にはないですから、歴史を生かしたまちづくりの一環としてそういう視点も取り入れていただきたいと思いました。

(西村会長)

ありがとうございます。ほかに何かありますでしょうか。よろしいですか。

私は1点だけあつて、資料景-7の東高島のところで、最初のページに全体の配置図があつて、一番左下の台場保全広場というところのことが今、問題になっているわけですね。ここの一番左側のところに、神奈川台場の埋設想定位置というので線が引いてありますが、ここはちょうど建物の裏側に石垣が1列残っているところですね。そこだけが恐らく今の神奈川台場で残っている、ほぼ唯一の見えるところだと思うので、そこが壊れるようなことがないようにしてもらいたいと思うのですが、その辺は議論の中で何か確認されているのでしょうか。

(吉田書記)

台場保全広場という名のとおり、ここは、見えているところはそのまま保全し、見えていないところは今の計画では基本的に埋めたまま保存するといった広場でございます。

(西村会長)

でも、先ほどの話だと、そこに建物を建ててもいいような計画にするのですよね。

(吉田書記)

軽い建物になると思いますが、下にある、埋まっている台場は傷めない程度という意味です。

(国吉委員)

保全する形の展示や活動などが行える拠点も少し必要かもしれないということで、そのぐらいのことが許される枠組みにしようということです。

(西村会長)

なるほど。分かりました。ほかよろしいですか。どうぞ。

(中島委員)

まず、リモートで準備していただきありがとうございます。景-8なのですが、結論のところ、ゴンドラの現場での見え方を確認して議論する場を設けることとあつて、もう多分試乗されていますよね。その結果はどうなったのでしょうか。

(堀田書記)

まだ試乗はしていません。今のところ4月22日に開業していくということで、今動いているのを多分見られたと思うのですが、まだ試験運転をしている最中で、今日、国交省の検査を受けて合格すればいろいろな試乗を始めるような状況にはあります。

(中島委員)

では、まだデザイン室の方も乗っていない状況なのですか。

(堀田書記)

はい。デザイン室だけではなくて、関係者全員外から見ているだけという状況です。

(中島委員)

分かりました。

(吉田書記)

夜間景観の見え方につきましては、先ほども少し申し上げたのですが、4月5日の夜に景観審査部会の皆様で、その日可能な方は来ていただいて、実際に夜見をいただいて、その後、会議室に戻って議論いただくという場を設けてございます。4月5日の夜でございます。

(西村会長)

よろしいですか。ほかは大丈夫でしょうか。国吉委員。

(国吉委員)

なお、この夜間景観のゴンドラと駅舎の夜間演出は石井幹子さんが直々にやっていたらいいと思います。

(西村会長)

随分派手ですね。

(吉田書記)

4月5日には石井幹子さんもいらっちゃって議論すると。

(西村会長)

よろしいでしょうか。

それでは、次に行きたいと思います。次は政策検討部会について、事務局からお願いいたします。

議事2のうち、政策検討部会の開催状況について、事務局から説明を行った。

(西村会長)

ありがとうございます。私が部会長を兼ねておりますので少し補足したいと思います。全体としてはデジタルサイネージがすごく進んできていろいろなところにやれるようになって、同時にナイトタイムエコノミーの活性化みたいところで、それを有効に活用することも大事ではないかというようなこと。それから、イベントなどがあるときに、例えばスポンサー企業のロゴなど特別な屋外広告物をそれなりに評価するような仕組みが必要ではないかということが議論の中心になりました。特に最初の夜間景観のところでは、最初「ハレ」と「ケ」ということで議論が整理してあったのですが、むしろ「ハレ」でも「ケ」でも横浜の都市、例えばインナーハーバーというような構造が浮き出てくるような照明が大事ではないかと。それをめり張りを付けて、平常時とある特定の短い時間はもっと引き立たせるとか、そういう考え方にはしてどうかということでも若干変えていただいているという感じで、全体としてはそういう形の議論がされました。以上です。

何かこの件に関してのご質問やご意見等あればと思いますが、いかがでしょうか。ないですか。何か政策検討部会の件に関してありますか。リモート参加の委員の先生方もよろしいでしょうか。

それでは、特にご意見がないということで先に進めたいと思います。

(3) 都市デザインの広報について (報告)

(西村会長)

議事の3番目、都市デザインの広報について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

議事3について、事務局から説明を行った。

(西村会長)

ありがとうございます。それでは、この広報につきまして何かご質問等あればと思いますが、いかがでしょうか。中島委員、お願いします。

(中島委員)

まず、このコロナ禍においても地域に根づいて都市デザインの活動を続けているのがとても素晴らしいなと思いました。私はおとし、景観まちづくり会議のときにガイドをやらせていただいたのですが、そのとき参加者の方々が、六大事業という大きなことはもちろん、関内地区にあるタイルや史跡にも興味を持っていることを感じまして、そこの経験からこういう小さな取組の大切さを感じましたので、続けていただきたいと思います。公共空間活用については道路占用の期間が延長したと思う

ので、引き続き活動していただければと思います。

(西村会長)

ありがとうございます。ほかに何かありますか。よろしいでしょうか。会場の委員の方もよろしいですか。それでは、道路占用に関してはもう少し続けていただきたいと思いますということがありました。

(4) その他

・次期市民委員の公募について

(西村会長)

それでは議事の4番目、その他ですが、事務局から何かありますでしょうか。

議事4について、事務局から説明を行った。

(西村会長)

よろしいでしょうか。そういうことであります。

それでは、その他で何か事務局からありますでしょうか。

(梶山書記)

特にございませぬ。

(西村会長)

では、委員の方々からこの際何か。鈴木委員、お願いいたします。

(鈴木委員)

先ほど「歴史を生かしたまちづくり横濱新聞」第36号を配っていただきましたが、こちらを開けて2ページ目に、新しい市役所のところに昔の灯台などの遺跡が一部保存されているという小さな写真が5番目、6番目ぐらいにあります。都市デザインはいろいろな考え方があると思うのですが、歴代の市庁舎というのはかなり有名な建築家が設計したり、建物自体も相当いいものを建設してきた歴史の積み重ねがあって、関東大震災などがありまして建て替えられたりもしましたが、そういう横浜市庁舎の歴史を、新しい市庁舎のどこかに、このように市庁舎が変遷してきましたみたいなコーナーがあったらいいなと思いました。例えば、日本大通りに横浜都市発展記念館がありますから、ああいうところで企画展としては横浜市のことや遺構のことを取り上げてくれますが、それはそのとき1回限りですので、広報としてはそう強いことにはなりません。せっかく市民が訪れるオープンスペースをかなり取っていて、広くてすごくいいのですが、そこに何か今までの横浜市庁舎の歴史、それは都市デザインにもつながることだと思いますので、そういう紹介コーナーみたいなものがほんの一角でもあれば、市民がちょっと足を止めます。都市デザインというのは大きなことも必要ですが、やはり市民のレベルを高めないと、例えばあの景観は嫌だという声は出てこないのです。そういうことは、日本はヨーロッパなどの人に比べると意識が低いような気がします。だから、そういうことで、例えば都市デザインの広報として子供たちへの教育とかいろいろな方法はありますが、市庁舎の一角にそういうスペースを設けるということは、横浜市が今までの歴史を大事にしています、これからの都市デザインとかそういうことも大事にしますという一つのメッセージなのです。せっかくあれだけのものをつくってオープンスペースもあるのですから、その辺のことをこれからでもいいから考えていただきたいと思っています。

(西村会長)

いろいろ工夫をしていただければと思います。ついでに言わせてもらおうと、昔の写真と一緒に当時の地図と、そこの中のどこに市庁舎があったかというのがうまく記録としてあるといいなと思います。私はいろいろな市の市史を読むのですが、具体的な場所がちゃんと書いていないのが多いのです。簡単な住所だけ、何々町ぐらいしか書いてなくて、当時の街の中でどんな位置に、多分すごくいい位置を占めているのでしょうか。というようなこともあるので、ぜひまたいろいろなことを工夫してもらえばいいかなと思います。

ほかに何か、この際注文があればと思いますが、よろしいですか。関先生、どうぞ。

(関委員)

一番最初の話題にあった都市デザインの50周年で、1971年の都市デザインチームというのが企画調整局ですよ。これが最初の頃の歴史、都市形成史ですが、近世からの1978年、80年前後までがまさにアーカイブされていて、その後40年以上、50年近くいろいろなことが行われてきたので、それをア

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>ーカブ化されると伺っています。これは1年や2年では無理なので、このすてきな本を3年間かけて、都市計画学会とか横浜国大の先生、あと都市デザイン室の国吉先生も名前が出ていますが、少しそういうものを、別に本にしなくてもいいと思うのですが、ただ過去を振り返るということだけではなくて、それが未来につながるという観点からまとめる作業に着手する1年目にさせていただきたいと思いました。巻末のところに田村明さんが文章を書かれていますのですが、全国をリードする人間的都市づくりの手法、これが都市デザインだというようなことが書かれていて、なかなか勇気づけられるメッセージが強く表現されています。先ほど書庫に行って読んでいたのですが、そういうことも考えていただければと思いますので、一言言わせていただきました。以上です。</p> <p>(西村会長)</p> <p>ありがとうございます。ああいう印刷物があると、次の世代の人が資料として見てくれるので残りますよね。だから、将来世代に残すのは、未来会議もありますけどこういうものも残るので、予算が要りますけれども、ぜひ予算を取る努力もしてほしいと思います。</p> <p>ほか何かよろしいでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それでは、審議内容はこれで終わりなので、事務局から確認をお願いしたいと思います。</p> <p>(梶山書記)</p> <p>今日は3件報告事項がございました。議事1、都市デザイン50周年企画について、議事2、各部会の報告について、議事3、都市デザインの広報について、以上でございます。本日の審議会の議事録については、あらかじめ指定した者の確認を得た上で、それを閲覧に供することとなっております。本日の議事録は会長の確認をいただき閲覧に供することとさせていただきます。</p> <p>(西村会長)</p> <p>よろしくをお願いします。</p> <p>それでは、次回の審議会の日程等につきまして、事務局から連絡事項をお願いします。</p> <p>(梶山書記)</p> <p>次回親会につきましては、通常ですと改選後の8月7日以降としていますが、審議案件の関係から、その前に一度親会を開催させていただく予定です。各部会含めまして、日程につきましては別途調整させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p> <p>閉 会</p> |
| 資 料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第、座席表、横浜市都市美対策審議会名簿、第128回議事録</li> <li>【議事1】</li> <li>・ 資料1 : 都市デザイン50周年企画について (報告)</li> <li>【議事2】</li> <li>・ 資料2-1 : 第128回都市美対策審議会以降の各部会の開催状況 (一覧)</li> <li>・ 資料2-2 : 横浜市都市美対策審議会 各部会の開催報告について</li> <li>・ 資料景-1 : 山下公園通り地区 地区計画区域内の建築物等の計画に対する意見について</li> <li>・ 資料景-2 : 特定都市景観形成行為に関する協議事項及び協議の方針に関する意見について (関内地区都市景観協議地区 中区山下町31番)</li> <li>・ 資料景-3 : 特定都市景観形成行為に関する協議事項及び協議の方針に関する意見について (山手地区都市景観協議地区 中区山手町241番1)</li> <li>・ 資料景-4 : 藤が丘駅前地区(昭和大学藤が丘病院)の景観形成について</li> <li>・ 資料景-5 : 「みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路」再整備における都市景観アドバイザー制度の活用について</li> <li>・ 資料景-6 : 特定都市景観形成行為に関する協議事項及び協議の方針に関する意見について (みなとみらい21中央地区都市景観協議地区 西区みなとみらい5丁目1番地)</li> <li>・ 資料景-7 : 東高島駅北地区の景観形成について</li> <li>・ 資料景-8 : 「まちを楽しむ多彩な交通」における景観形成について</li> <li>・ 資料景-9 : 関内地区北仲通南準特定地区での景観形成について</li> <li>・ 資料景-10 : 関内地区都市景観協議地区 (中区横浜公園)における景観形成について</li> <li>・ 資料政-1 : 夜間景観のあり方検討について</li> <li>・ 資料政-2 : 創造的イルミネーション事業令和2年度の実験イベントについて</li> <li>・ 資料政-3 : 夜間景観のあり方検討を踏まえた屋外広告物制度の見直しについて</li> </ul>                               |



|      |  |
|------|--|
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料政－４：景観制度の見直しについて</li> <li>・資料政－５：現市庁舎街区活用事業（旧市庁舎街区）における都市景観アドバイザー制度の活用について</li> </ul> <p><b>【議事３】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料３：都市デザインの広報について</li> </ul> |
| 特記事項 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の議事録については、会長が確認する。</li> <li>・次回開催の日程等は、別途個別に日程調整する。</li> </ul>   |